

活動の記録

3月18日(日) 晴

3月の定例活動は彼岸の入り当たる18日でした。暑さ寒さも彼岸までの言葉通りに穏やかな陽気に恵まれましたので、自然休養村 里のめぐみ館駐車場に集まって来たメンバー達が朝の挨拶を交わす顔にも、厳しい寒さから解放された安堵感があり、皆さんにこやかでした。

当日の活動内容はシカの調査、シイタケの楯木整理とヒラタケ植菌、昼食の休憩時には来年度の活動計画についての話し合い、更に松田さんによるキノコの健康効果についての資料に基づく解説など盛り沢山でした。同時に松田さんから提案された自前の山の神を祀る件は役員間での検討事項としました。

また、中央博物館の尾崎さんは植栽されたヒメコマツの生長調査に地元出身の小泉さんを伴って来られました。

活動終了後に伊藤事務局長と一緒に吊り橋近くの休耕農地が借用できないかとのお願いに地主さん宅を訪ねました。空いている土地だから自由に使って良いとの承諾を得ましたので、使い方は皆さんのアイデア次第です。ただし、周囲の草刈が交換条件ですから今後は何かと作業が多くなりますので宜しくお願いします。(坂本)

参加会員14名：伊藤、鶴沢、及川、大原、久我夫妻、坂本、成沢、根本、福島、真鍋、松田、村野、山口。



〇ニホンジカ生息状況調査

3月活動日の最初の活動として、ニホンジカ生息状況調査を行いました。この調査は、3か月ごとに年4回実施している調査で、今回は2017年度の最終回になります。

いつものように島内を7コースに分けて一斉に踏査を行い、島内にシカがいるかどうか調査しました。調査時間は9時55分から約30分です。調査の結果は、島内のあちこちで比較的新しいシカのフンが見つかりました。

シカの目撃はありませんでした。フンからもわかるように、シカは冬でも島を利用しているようで、ほかに、前回の活動日に見つかったコショウノキ1本が食害と思われる被害を受けて先端がなくなっており、シカによる植生への影響が心配されます。(記事・画像とも福島)



〇ヒメコマツ成長調査

3月の活動日に合わせて県立中央博物館の尾崎さんが、地元出身の小泉さんとともにヒメコマツの調査に訪れました。

ヒメコマツは、岬の尾根沿いに植栽したものは全個体が元気に育っており、成長も良いとのことでした。

一方、広場近くの植生保護柵内では、植栽した31個体のうち生存しているのは17個体と減少しており、この1年で3個体が枯れたとのことでした。この枯れた3個体には、柵内で最も成長が良かった個体(枯死時点の樹高が467cm)が含まれており、現在の最大個体は390cmになったそうです。

管理については、引き続き夏場にヒメコマツ周囲の刈り払いを行うことにしました。(福島)



○シイタケほだ木運びー仮伏せ

ほだ木運びを偶然することになりました。初めは、二人組で運んでいましたが、うまく運べないので一人で担ぐ事にしました。少し高い所に置き手前に倒す様に担ぐと、うまく担ぐ事ができました。まさに、「歩だ木」になりました。

普段丸太を運んでいるので、あまり気にならないのですが、周りの人には力強く見えた様子です。災害時には、必要なスキルだと思います。これができなくなった時、大工は廃業し大家になります。（大原）



○ヒラタケ植菌

11月の活動で伐採したイヌシデとコナラを15センチ長さに玉切り作業を行い、ヒラタケ植菌を行いました。その内訳はイヌシデ22セット、コナラ5セットです（合計27セット）。

種菌の配合は、ヒラタケ菌1リットル、米ぬか2リットル、（玉切りで出たイヌシデの）おがくず4リットル、水4リットルです。本日の作業で、玉切りした材で菌をサンドウィッチの様に挟んで、その箇所はラップで乾燥を防ぐようにぐるりと巻いてセット完了です。さらに、湿気を保つよう上からブルーシートをかけ、仮伏せまで完了しました。ヒラタケ菌は「ひらたけ39号」です。

4月に本伏せ、その後の養生作業等うまくいけば、11月～1月には収穫できる予定です。楽しみです。（成沢）

○植物たち・春のめざめ



マメザクラ(坂本)



クロモジ(坂本)



ヒガンナムシグサ(坂本)



シュンラン(福島)



タチツボスミレ(福島)



フモトスミレ

豊英島にも春が来て、マメザクラが満開、クロモジの花と蕾が鮮やかに輝いて見えました。林床にはヒガンナムシグサがいっぱい、シュンランが咲き始め、タチツボスミレ、フモトスミレなども咲き始めていました。詳細は急斜面も丹念に観察された次の福島記事をご覧ください。（真鍋）

・スハマソウ

今回、開花が確認できたのは、吊り橋近くの北岸に2株3花と、ホコラ山の北斜面に3株4花のみでした。開花株だけでなく、未開花の株も含めて個体数が減少しているように感じます。ホコラ山の北斜面ではシカのフンも見つかっており、シカの食害による影響なのかもしれません。



スハマソウ

・コショウノキ

前回の活動日に見つかったコショウノキが、白い花を咲かせて良い香りを漂わせていました。株の雌雄は不明です。今後、結実するかどうかを確認したいと思います。



コショウノキ



ヒナスミレ

・ヒナスミレ

豊英島では4月の初めに咲くスミレ。暖かい日差しにフライングして咲いているものはないかとかなり探しましたが、残念ながら花には出会えませんでした。それでも、あちこちに葉を広げておりすでにつぼみをつけている個体もありました。今年は花を見たい！



ヒカゲツツジ

・ヒカゲツツジ

ヒカゲツツジのある崖を上からのぞいてみました。辛うじて崖にへばりついている状況ですが、撮った写真をよく見ると、花芽のように見えるものが2~3個ありました。4月の活動日に確認しなくては。

(以上記事、写真とも福島)

・(おまけ) 春のめざめ

アオダイショウが日向ぼっこをしていました。

その近くにはアマガエルも顔を出していました。

(記事、写真とも福島)



アオダイショウ



ニホンアマガエル

・(おまけ2) 虫たちのフィールドサイン



オオカマキリの卵のう



クスサンの繭



ウスタビガ(左)とヤママユガ(右)の繭
(真鍋)

ヒガンマムシグサの事

名前の由来はお彼岸の頃に咲くマムシグサの仲間だからです。

島内ではシカの食害も無く、沢山咲いていましたから有難みを感じませんが、南房総固有の変種のように、全国的に見れば珍種になるようです。因みに私の住まいに近い北総の里山では全く見られず、あるのは普通のマムシグサばかりです。同じ県内で距離的にもたいして離れていないのに、随分違うものです。



ヒガンマムシグサ

図鑑などで両者を見比べると、互いに似ていて識別が難しいのですが

開花時期に2か月程の大差があるので、それを知った上で自生地の現物を見れば迷う事はありません。

(記事・写真とも坂本)

○野鳥の記録 (メモの順)

カワラヒワ囀り ヤマガラ囀り トビ2+声 ヒヨドリ声 ウグイス囀り オシドリ2+声

ハシブトガラス声 シジュウカラ囀り コゲラ声 ホオジロ囀り メジロ囀り 11種

彼岸に入ったばかりですが、小鳥たちは既に春の繁殖活動が活発です。

至る所から雌へのラブコールと縄張り宣言である囀りの声が聞こえてきました。(坂本)

○センサーカメラの画像から

先月からカメラの扱いを及川さんにバトンタッチしたのですが、SDカードの画像データがパソコンに取り込めないトラブル中との事で、引き続き私から報告します。

今回の画像はイタチでしょうかテンでしょうか写っていたのはこれだけでした。

私には種名がはっきりしないので生物多様性センターに問い合わせますが、回答は今月の便り発行に間に合わないと思います。判明次第お知らせします。(坂本)



テン？又はイタチ？センサーカメラ 2/22 3:27

○シイタケ採り

久しぶりに多量の椎茸が収穫出来ました。収穫量は 3,5kg です。少し大きくなってはいますが、美味しい冬菇、当日の活動に参加で希望の会員に分配しました。(久我則子)



シイタケ(伊藤)

お知らせ

○4月定例活動日 4月15日(日) 9時30分君津市清和自然休養村管理センター集合、年次総会、倒木処理、植物、野鳥、昆虫調査、自由散策などを計画しています。春の豊英島が待っています。多くの会員の参加をお待ちしています。

○5月定例活動日 5月13日(日) 9時30分清和県民の森木のふるさと館駐車場集合、「初夏の豊英島と清和県民の森を楽しむハイキング」を実施します。詳細は別紙チラシをごらんください。どなたでも参加できます。また、千葉の自然に親しむ会がバス(千葉駅NTT前7:30分発)を運行します。利用希望者は、盛一さん(043-278-4048)までお問い合わせください。有料です。

○吹春講師による野生きのご観察会は、8月19日(日)、10月14日(日)の予定です。(伊藤)